大望をいだく河童

坂口安吾

青空文庫

昔、池袋にすんでいたころ、小学校の生徒に頻りに敬礼されて、その界隈を遠廻りに敬遠して歩かねばならなくなったが、僕に似た先生がいたに相違ない。

戦争中、神田の創元社へよく遊びにでかけたが、日大生に時々敬礼された。何先生が僕に似ているのか気にかかった。

まだ焼けて幾日にもならぬ高田馬場駅で、夜であったが、軍服の青年（将校らしい）に挨拶され、第二高等学院の何々先生ではありませんか、とこれは明らかに名前を言われたのだが、忘れてしまった。間違われて挨拶を受けるのはキマリの悪いもので、蒲田の易者は僕が手をだすと、

「旦那からかっちゃアいけませんや」という。本職の名人と思ってるのか、蒲田の顔役に似た旦那がいるのかも知れぬ。

井伏鱒二村長がキイキイ声で、

「ヤイ安吾、貴様、けしからんぞ」

「なぜ」

「銀座を歩いていたろう。ヤイ、安吾、僕がうしろから背中をたたいたら、新田潤じゃそうじゃないか。恥をかいた。よく似とる。けしからんぞ、こら」

後日浅草のお好み焼き屋で新田潤にはじめて会ったが、似ているものか。

中村地平と僕が一緒に歩くと、どちらが兄さんですか、ときかれたことが二三度あったが、似ていると直覚すると誰でも似て見えてしまうのだろう。中村君と僕は眉の濃く太いのが共通していた。

むかし小林秀雄は酔っ払うと僕に向って、ヤイ、河童、と言った。髪の毛が額にたれるせいだろう。

僕は然し、奇妙なことを言う奴だ、お前の方がよっぽど河童に似てるじゃないか、河童の絵を見ろ、とんがったクチバシと、三角にすぼまったアゴと、小林によく似てら。

「ヤイ、河童」

「変なことを言うな。お前の顔がオレに映って見えるんじゃないのか」

「なんでい、河童」

わけの分らん男だ。だから彼を独断家と称するのである。

時々くる雑誌記者がある日、すこしモジモジして、先生、実はよく似た人がいるんです、と言う。

「誰に？」

「ハア、実は、僕の郷里の乞食ですけど」

僕はギャフンとしたが、やむなく心を励まして、

「どこんとこが似ていた？」

「どこといって瓜二つですけど、なんとなく大望をいだく様子がソックリですね」

だから僕はジャーナリストに会いたくないのだ。礼節を知らないのである。

青空文庫情報

底本：「坂口安吾全集　05」筑摩書房
　　1998（平成10）年6月20日初版第1刷発行
底本の親本：「アサヒグラフ　第四八巻第三号」
　　1947（昭和22）年7月16日発行
初出：「アサヒグラフ　第四八巻第三号」
　　1947（昭和22）年7月16日発行
※初出時の表題は「自画像展覧会（その十七）」です。
入力：tatsuki
校正：藤原朔也
2008年5月10日作成
2016年4月15日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。


Arigo

大望をいだく河童

坂口安吾

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/